

ISO/TC79/SC2(軽金属及び合金/陽極酸化アルミニウム) 北京国際会議に出席して

須賀 茂雄

今年のTC79国際会議は、9月8～9日北京市の金泰海博大酒店(Golden Harbor Hotel)で各SCが同時に開催され、私はSC2会議(議長:菊池哲一般社団法人軽金属製品協会 専務理事)に出席した。

このSC2には、日本が提案した複合皮膜に関して、AHG-アドホックグループ(特設委員会)が設けられており、



会議場内にて

Convener(議長)は矢島勝司氏(独立行政法人産業技術総合研究所)で、日本からは、事務局を含め、総勢7名が出席した。

AHG会議では、「陽極酸化皮膜、有機皮膜(粉体及び溶剤皮膜)及び複合皮膜」に、SC2のスコップ(作業範囲)を広げることが決まった。追加された粉体塗装皮膜については、案をイタリアのMr. Boiが作成する。

また、この方針に沿って、SC2のタイトルは、「アルミニウム上の有機及び陽極酸化皮膜」(Organic and anodic oxidation coatings on aluminum)に変更されることになった。



会議場風景

ISO/TC61/SC6(プラスチック) ローマ国際会議に出席して

須賀 茂雄

今年のISO/TC61(プラスチック)国際会議は、10月4～9日、ローマ市のSheraton Golf Parco de' Medici Hotel & Resortにおいて開催され、私は、そのSC6/WG2(老化、耐薬品性、耐環境性部会のうち光暴露)会議(10月5・6日開催)に、高根由充氏(日本ウエザリングテストセンター)と共に参加した。会議には、チェコ、フランス、ドイツ、インド、スイス、タイ、イギリス、アメリカ、日本の9か国が参加した。主だった課題として、次の項目について審議が行われた。

(1) 次の規格(改正)が発行されたことが報告された。

1) ISO 4892-2:2009(実験室暴露試験—キセノン)の追補
この追補は、発行済のISO 4892-2において温度測定は、BSTとBPTのいずれでもよいことになっているが、試験サイクルの記述は、BSTのみであった。そこでBPTについても同様の記述をすべきであるという日本の主張が通り、BPTでの記述も新たな表として加えられた追補が発行された。

2) ISO 9370:2009(暴露試験における放射露光量の計器による測定方法)、

3) ISO 877:2009(太陽光暴露)

3つのパートに分けられ、第1部:通則、第2部:直接屋外暴露及びアンダーガラス暴露、第3部:太陽追跡集光促進暴露となった。

(2) ISO 4892-1(実験室暴露試験の通則)の改正
BPTのデザインについて討議が行われた。またそれぞれ改正されたISO 4892シリーズに整合させて行われた。

(3) 光源にキセノンランプを用い、酸性液を試料に当てる促進暴露試験方法が提案された。今後の進展が待たれる。
なお、ISO 4892シリーズのPL(プロジェクトリーダー)であり、耐候性試験については世界的権威で、WG2には毎回出席され、耐候性に関するもろもろの規格作成に永年にわたり尽力されたMr. Warren Ketola(米国)が12月3日逝去された。Mr. Ketolaは、昨年、スガウエザリング財団の国際シンポジウムで講演して頂き、大好評であったのを記憶されている方も多いと思う。心からご冥福をお祈りする。

ISO/TC42 (写真/画像の保存性) 東京国際会議に出席して

*坂本 和維

ISO/TC42 (Photography-写真)には、現在約15のWG (Working Group-作業グループ)があり、その中で、WG5 (Physical properties and image permanence of photographic materials)が、写真画像材の物理特性及び保存性を担当し、更にその下にTG (Task group)が設けられ、具体的に作業に当たっている。このWG5には、メンバとして、日本、米国、スイス、ドイツ、スウェーデン、英国などが参加している。

現在、進行中の作業課題には、1) 屋内耐光性、2) 屋外耐候性、3) 耐オゾン性、4) 耐摩耗性などがある。それぞれの課題について、最近の国際会議を中心に、その活動状況、今後の動向について、述べる。



ISO/TC42会議風景

WG5国際会議は、毎年2回、春と秋に開催される。2008年の秋は、米国のVancouverで開かれ、当社から私と三田村の2名が参加した。2009年の春は、米国Washingtonで5月に開催されたが、新型ウイルスの問題で、日本からは誰も出席できない事態となった。この秋は、日本が主催国となり、東京の千鳥が淵に近い半蔵門のグランドアーク半蔵門ホテルで、10月5日から9日までの1週間、開催され、当社からは延べ5名が参加した。

屋内耐光性 (ISO 18937) は、屋内環境をできるだけ忠実に再現することを基本にし、光源に、主としてキセノンランプ又は蛍光灯を用いた促進試験を規定する。試料のカラー

パッチ (色片) の温度をベースに、BPT (ブラックパネル温度) /WPT (ホワイトパネル温度) の温度条件を何℃に設定するかなどが審議的になっている。この問題を含め、第2次RRT (ラウンドロビテスト) が計画されている。現在、未だ第22次のWD (原案) の段階であり、各社の意向もあり、制定まで相当の期間がかかる見通しである。

屋外耐候性 (ISO 18930) は、現在すでに制定されている

ISO/TR18930に代え、新たにISO規格にするもので、屋外暴露方法とキセノンランプを光源とする促進試験を規定する。CIE Publication 85のTable 4の太陽光分光放射照度を基本として、キセノンの分光放射照度を基準とする。

屋外と促進の相関を見るため、RRTが本年12月スタートで計画されている。当社もこのプログラムに参加することになっている。

耐オゾン性 (ISO 18941) は、環境内のオゾンガスに対する耐性の試験を規定する新しい規格として作成される。審議過程では、他のガスも検討された。現在、CD (委員会規格案) 投票で承認された段階に進んでいる。

耐摩耗性 (ISO 18947) は、ASTM D6254に規定の回転型摩擦方式のものが提案されていたが、JISに規定の学振型摩擦試験機及び平面摩耗試験機による方法も追加規定の予定である。

10月8日 (木)、ISO/TC42のSecretaryを務めるHenry Wilhelm (Wilhelm Imagine Research) (写真左より4人目) とAlexey Kabalnov, Ph.D (Hewlett-Packard Company) (5人目) のお二人に会議の合間、当社見学にお越し戴きました。



*営業部海外担当